

テーマ	多様性の包摂にむけた学級経営の在り方に関する一考察 ー管理・統率型から状況調整型リーダーシップとしての教師の在り方ー
発表者 (所属)	石井雄大 (埼玉県公立小学校)
【発表概要】 次期学習指導要領では,「多様性の包摂」が論点化されている。文部科学省(2025)「教育課程企画特別部会 論点整理」では,「どの学校でも,多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化。多様性を包摂し,一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題」であると述べられている。このような課題に対応していくためにも,学級経営の充実が多様性の包摂の実現の基盤になることは言うまでもない。調査対象となる本学級も例外ではなく,様々な課題を抱えた児童がいた。本研究では,実践事例を分析していくことで,「多様性の包摂」を実現するために,どのような視点で学級経営を行えばよいのか、UDの視点をもとに考察する。 対象となった学級の児童は課題が多い児童が複数在籍していた。そのため,児童同士で上手くいかないことも多くあった。しかし,そのような環境でも,自分たちで協力して助け合うことの大切さを感じ,年間を通じ,明るく元気に笑顔で過ごしていたことが読み取れる。特に,課題を抱えた児童に対し,毅然とした対応を児童自身が行動や言動で示していた。何があっても自分たちで乗り越えていく姿勢を身につけていたと思われる。また,仲間外れにせず,いつでも課題を抱えた児童が安心して戻ってこられる関係性を築いていたと考えられる。「児童自身による課題解決の姿勢」と「児童同士の確かな信頼関係」が重要であると考えられる。 また「多様性の包摂」に向けて,担任が児童を取り巻く支援体制を整えることが改めて重要であると考えられる。担任は,課題を抱えた児童を,他の学級の児童と繋ぎながら,管理職を始めとした他の教職員との支援体制を構築する。保護者との連携は共通理解を生むためにも,他の教職員と共に行うことが大切である。	